

# 第 55 回愛知県総合教育センター研究発表会

## テーマ「学校の力、教師の力を高める」

平成 27 年 11 月 27 日(金) 愛知県総合教育センター

第 55 回愛知県総合教育センター研究発表会を、「学校の力、教師の力を高める」(2 年次) というテーマの下で、愛知県教育委員会佐藤元英教育委員長をはじめ、多数の来賓及び県内外から約 400 人を超える参加者を迎え、開催した。以下にこれらの概要を紹介する。

### 1 開会行事次第

- ・開会のことば
- ・所長挨拶
- ・愛知県教育委員会挨拶
- ・来賓紹介
- ・基調提案
- ・閉会のことば

### 2 講演

◆演題 「世界の中でみた日本の授業の特質は何か ―学習指導の持続的な改善を求めて―」

◆講師 筑波大学人間系 教授  
清水 美 憲 氏

### 3 研究発表・研究協議

次の各研究について発表と協議を行った。なお、各研究の詳しい内容については、当ウェブページ「研究紀要第 105 集 (平成 28 年 4 月 1 日掲載予定)」を御覧ください。

#### ◇第 1 部会 評価手法(高特)

##### 高等学校における多様な評価手法に関する研究

(国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 英語)

##### 【発表の概要】

文部科学省の委託により平成 25 年度から進めている「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」事業の最終報告を行った。はじめに、本研究の背景と目的について説明し、研究校 5 校の取組の概要と効果について解説した。次に、各研究校の研究協力委員がそれぞれの学校の取組について発表した。研究 3 年目の惟信高 (英語) はスピーキングとライティングのパフォーマンステスト、プロセス・ライティング、ALT の視点を取り入れたルーブリックと評価の研究について報告し、一宮南高校 (理科) は本校理科としてのコア (=理科を通じて生徒に身に付けさせたい力) の構築と物理を中心としたパフォーマンス課題の実施、平素の授業における留意事項について報告した。続いて研究 2 年目の日進西高校 (国語) は主体的な学習を目指した古典でのパフォーマンス課題、現代文での新聞社説の読み比べやピア・リーディングの取組、吉良高校 (地理歴史, 公民) は単元の本質的な問いを明確にし、身に付けた知識を活用して思考力や判断力を発揮させるパフォーマンス課題の実践例、蒲郡高校 (数学) はグループ学習等を取り入れたパフォーマンス課題やルーブリックによる評価、目標を明確にした単元設定について報告した。いずれの報告も、目指す生徒像、育てたい人間像を念頭に置いた上で指導と評価を行うことの重要性を述べるものであった。

研究協議の内容については、前半は大学の指導助言者から指導・講評を、後半は部会参加者から寄せられた質問に研究校の委員と指導助言者が答えるという形式で行った。

会場から集められた質問には、評価の具体的な回数や方法、アクティブ・ラーニングを導入するに当たっての課題と解決策、研究に取り組む上での成果や苦勞に関するもの等があった。

## ◇第2部会 道徳(小中高特)

### 小中学校における多様な評価手法に関する研究(道徳)

### 高等学校における道徳教育の推進の在り方に関する研究

#### 【発表の概要】

「小中学校における多様な評価手法に関する研究(道徳)」と「高等学校における道徳教育の推進の在り方に関する研究」の二つについて発表を行った。

小中学校における研究では、現行学習指導要領と一部改正学習指導要領を踏まえて整理した「道徳の時間」における評価の基本的な考え方と、その考え方に基づいて実践された一枚ポートフォリオ評価を軸とした取組の分析について報告した。実際に児童生徒が記述したOPPシート、教師が作成した生かし方記録を展示し、具体的な評価手法の一つとして提案した。

高等学校における研究では、研究協力委員(岡崎工業高、豊橋商業高)による実践報告を行った。マイクロ・インサクションを活用した校内研修・授業案づくり、愛知県教育委員会発行の『明日を拓く』を家庭基礎の授業で活用する事例を紹介した。また、誌上発表として、研究協力委員(豊田西高、松平高)による『明日を拓く』を活用した実践事例も紹介し、道徳教育の推進を図る具体的な方策を提案した。

研究協議では、同じ校種の参加者が4～5名の小グループとなり、「道徳教育のさらなる充実に向けて」をテーマとして、現場の実情に関する報告を含めて協議を行った。

小学校、中学校のグループでは「道徳の時間における評価に、具体的にどのように取り組むか」についての協議を、高等学校のグループでは、「道徳教育の推進を図るために、具体的にどのように取り組むか」についての協議を行った。

## ◇第3部会 豊かな人間性(小中高特)

### 豊かな人間性を育む指導の在り方に関する研究

#### 【発表の概要】

「豊かな人間性を育む指導の在り方に関する研究」の発表を行った。はじめに、研究の目的や方法に加え、当センターが県内の児童生徒と保護者に対して行った実態調査の概要や分析方法についての説明をして、同調査から得られた児童生徒と保護者の意識や実態についての分析結果を報告した。その後、研究協力委員が研究実践について発表した。日進市立赤池小学校は、活動のねらいを伝え、自分なりの目標を明確にする取組をはじめ、さまざまな地域・保護者との実践について報告した。田原市立赤羽根小学校は、異学年交流や家庭や地域を巻き込んだ交流の推進を中心とした活動を報告した。南知多町立豊浜中学校は、保護者を交えた道徳の授業を実施し、学校と家庭の相互で子どものよさを認める場の設定を報告した。碧南市立新川中学校は、生徒会を中心とした地域行事への参加を通じての自己有用感を育む指導の在り方について報告した。県立一宮北高等学校は、「地域交流スポーツカルチャーバイキング」の実施を中心とした活動を報告した。県立知立高等学校は、キャリア教育と連携した取組の中の市民行事参加や小学校との交流の実践を報告した。最後に実践に対する質疑応答があり、小学校の実践校2校から異学年交流について補足説明をした。

研究協議では、6つの班に分かれ、①各校の取組の紹介、②協力校の実践報告を聞いて自校で取り入れたいことの2点についてグループ協議を行った。その後、各班から協議内容を全体の場で報告した。

## ◇第4部会 教育相談(小中高特)

### 教育相談における校内支援体制に関する質的研究

#### — 気になる児童生徒へのチーム支援のつくり方 —

## 【発表の概要】

「教育相談における校内支援体制に関する質的研究―気になる児童生徒へのチーム支援のつくり方―」について発表を行った。教育相談における校内支援体制について、本研究のねらいを二点にしぼって提案した。

一点目は校内支援体制の構築過程を理論的に明らかにすることである。教育相談のベテランたちが積み上げてきた経験から積み上げられてきた意識化されていない知の集積を整理・一般化し、校内支援体制の構築過程を表す「仮説モデル」として提案した。

二点目は校内支援体制の在り方を実践的に明らかにすることである。チーム支援の可視化や意識化の視点を取り入れた「チーム支援シート」を開発した。教育相談に初めて携わる者にとっても、組織による支援が実感しやすい「チーム支援シート」を、実際に学校現場で使用することで、校内支援体制の在り方が明確化できるとした。

研究協議では、研究概要として研究の方法や内容等について説明した。「校内支援体制の構築過程を理論的に明らかにすること」については、教育相談のベテランからインタビュー調査を行い、それを「修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA)」を用いて、分析・整理し「仮説モデル」として提案した。「校内支援体制の在り方を実践的に明らかにすること」については、平成 25 年度に当センターが作成した「事例シート」を活用し、チーム支援体制のつくり方に視点を置いて再検討を行い「チーム支援シート」として提案した。

続いて、研究協力委員が3分科会(小学校, 中学校, 高等学校・特別支援学校)に分かれ、「チーム支援シート」を活用した模擬事例検討会を行った。「チーム支援シート」を実際に使用し、さらに学校での活用という視点で話し合いをした。その後、各分科会での意見を全体で情報共有した。

## ◇第5部会 情報教育(小中高特)

### 情報モラル指導者養成の取組とインターネットの教育利用に関する研究

#### 【発表の概要】

全体会では、平成 26 年度に取り組んだ「情報モラル指導者養成講座」について、研修参加者の情報モラルの指導者としての意識を向上させ、指導への自信につながったことを報告した。その後、この取組で実施した「ワークショップ形式で行う情報モラル校内研修」を体験し、情報モラル教育について協議した。また、平成 27 年度から行っている情報モラルに関する研修での取組を紹介した。

分科会①では、テレビ会議システム等、ネットワークを効果的に活用した参加・交流学习について、6名の研究協力委員(佐屋西小, 井上小, 上野中, 西部中, 半田特別支援桃花校舎, 岡崎特別支援)が発表した。「社会人との交流」では、児童の発表技法に関する遠隔地からの助言、地域で働く人々との交流による職業観の育成、体験実習に向けた保育士からの事前指導の実践を、「学校間交流」では、学校祭における本校と分校との交流、大学からの通信講義、二校による理科の共同実験の実践を、「遠隔教育」では自宅療養中の生徒とともに音楽の授業の実践を報告した。実施背景や使用機材、児童生徒の学びの様子を動画や画像で紹介し、児童生徒の変容に主眼をおいた報告を行った。分科会②では、校内ネットワーク内にファイルサーバを構築することで、校務や授業で活用できるファイルの共有方法、校内ネットワーク内でタブレット端末を利用するための設定やその活用方法、古いコンピュータをサーバとして再利用する技術的な方法や手順について、4名の研究協力委員(半田高, 半田商業高, 豊田西高, 半田商業高)が発表した。また、タブレット端末の操作実演も行った。

## ◇第6部会 教科研究(地理歴史科・公民科 高特)

### 地理歴史科・公民科の目標達成に向けた段階的・継続的な学習指導の在り方に関する研究

#### 【発表の概要】

平成 25 年度から平成 27 年度までの三年間にわたる「地理歴史科・公民科の目標達成に向けた段階的・継続的な学習指導の在り方に関する研究 ―学習指導要領下の地理歴史科・公民科ロードマップ―」の報告

を行った。はじめに、現行の学習指導要領の改定の背景や目的等及び本研究の概要について説明した。特に、科目の目標を踏まえて、授業を通して生徒に身に付けさせたい力等を見だし、最終ゴールとしての「期待する生徒像」を明確化した上で、科目の授業の最終目標として設定したことやそれを具現化するために、科目のまとめから逆向きにどのような力を身に付けさせるのかという視点で科目の指導計画（ロードマップ）を設計している点を解説した。

続いて、各研究協力委員（瑞陵高、天白高、犬山高、木曾川高、安城高、安城東高、豊橋南高）が、ロードマップ及び単元デザインから始める授業について実践報告を行った。実践では、単元を貫く問いをたて、資料等を活用して、生徒に言語活動等に取り組みさせることを通して、生徒に身に付けさせたい力等の育成を目指した取組を報告した。

研究協議では、部会参加者から寄せられた質問に研究協力委員と所員が回答するという形式で行い、最後に県立学校長から講評をいただいた。

## 4 教育相談特別研修論文の内容紹介ビデオについて

### ○愛知県立岡崎西高等学校 保坂 勇介 教諭

#### テーマ「充実した体験や行動が及ぼす影響に関する考察

##### －アンケート調査の質的研究を通して－

高等学校への進学は生活環境や人間関係、部活動などの諸活動に変化をもたらし、思春期という不安定な時期の生徒にとって、心身ともにアンバランスな状態になりやすい。とりわけ、心に関しては、アイデンティティの確立という発達課題を抱えていることも相まって、揺れ動きやすいと思われる。本研究では、充実した体験や行動がアイデンティティ確立と自己形成に寄与し、成長を促すことと、「社会的スキル・コントロール」と「協同」を育成し、人間関係スキルを磨くことに影響すると結論付けた。また、教員は生徒が意識する重要な他者として、自ら自尊感情を高め、生徒の鑑と壁として意識される存在であるよう自己研鑽が求められていると考えられた。

### ○愛知県立碧南高等学校 杉原 真理子 教諭

#### テーマ「高校生の学校生活適応感の測定と適応支援のためのグループ・アプローチの試み

##### －予防・開発的教育相談の観点から－

高校生の学校生活適応感について10因子を含む尺度で調査をした。その結果、「生活習慣」「学校行事」「学校規則」「家族関係」「自己肯定感」「進路目標」「学習意欲」「友人関係」は互いに相関があることが分かった。中でも「友人関係」は全ての因子と相関関係があり、学校生活の適応に最も重要な因子であることが分かった。また、学年が上がるにつれて適応感が増していること、男子よりも女子の方が適応感が高いことが分かった。

調査結果を基に、予防・開発的教育相談としてグループ・アプローチを実施した。実施前後で適応感における差が見られなかった。

## 5 愛知県教育史編さん事業による刊行物の展示

本事業で刊行・完成した「本文編」「資料編」「年表」「資料目録」全巻を展示した。

## 6 県入選教育論文の展示

第1回から第48回までの県教育研究論文入賞者（最優秀賞と優秀賞）の論文を展示した。